


再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 <small>きんぎしどうしやどう きせいせん</small> 近畿自動車道 紀勢線 <small>おわせきた きいながしま</small> 尾鷲北～紀伊長島	事業区分	高規格 (新直轄)	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 自：三重県尾鷲市坂場西町 至：三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区東長島	延長 21.2km		
事業概要 近畿自動車道紀勢線は、中京圏、関西圏と三重県南部地域を結ぶ広域ネットワークを形成する道路である。尾鷲北IC(仮称)～紀伊長島IC(仮称)の21.2km区間は、一般国道42号とともに、地域の生活文化や産業経済の振興に寄与し、また災害に強いルートとして地域の生活基盤を支える重要な役割を担う路線である。			
H11年度事業化		H8年度都市計画決定	
H17年度用地着手		H18年度工事着手	
全体事業費	約950億円	事業進捗率	31%
計画交通量	8,700台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.3	総費用 (残事業/事業全体) 671/955億円 事業費：599/883億円 維持管理費：72/72億円	総便益 (残事業/事業全体) 1,206/1,206億円 走行時間短縮便益：950/950億円 走行費用減少便益：210/210億円 交通事故減少便益：46/46億円
	(残事業) 1.8		
感度分析の結果 (※2) 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.9(交通量+10%) B/C=1.5(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.6(事業費+10%) B/C=1.9(事業費-10%)			
・災害への備え(代替路線として機能分担、孤立化集落の解消) ・安全で安心できるくらしの確保(三次医療施設へのアクセス向上) ・物流効率化の支援(農林水産品の流通の利便性の向上)			
			他6項目に該当
関係する地方公共団体等の意見 三重県南部では、東南海地震の発生が極めて高い確率で懸念される中、地震発生時に唯一頼りになる国道42号が津波等によって寸断され、各地が陸の孤島化する。緊急輸送路として『命の道』高速道路の整備が特に重要な区間であることから、尾鷲市をはじめとする関係2市3町で構成される熊野尾鷲道路建設促進期成同盟会等で早期整備の要望を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・市町村合併に伴う生活拠点の広域化 ・周辺の高速道路ネットワークから取り残された地域 ・熊野古道(H16.7世界遺産登録)等の歴史的遺産や地域の産業を生かした地域活性化への取り組み			
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成20年度末までに用地取得率87%に達成し、平成20年代中頃に全線暫定2車線供用予定である。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 全線にわたり工事を進めており、平成20年代中頃に全線供用予定である。			
施設の構造や工法の変更等 インターチェンジの構造見直しや、新技術・新工法の導入によりコスト縮減を行っている。			
対応方針	事業継続		
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。